

3月4日、兵庫県立大学経営学部加納ゼミ、高階ゼミと、ひょうご仕事と生活センターとの共同研究の発表会を開催しました。

本研究は、ワーク・ライフ・バランス（WLB）に関する研究テーマを設定して調査などを行い、新たな視点から課題の洗い出しや検討をすることで、企業・団体のWLB推進支援につなげていくことを目的としています。本年度は取組の進んだ企業を選定し、企業の協力を得て従業員意識調査を行い、WLBの取組を中心とした分析をしました。

調査の分析では、重回帰分析という手法により、WLBに関する諸要素（WLBの充実度、長時間労働の有無など）や、組織運営が従業員の心理や態度、職務満足度や職務上の協力関係などにどのような影響を与えるかという因果関係を明らかにしました。

そして各社を訪問して分析結果の報告や改善策の提案などを行い、そのまとめを発表しました。

1 製造業2社の調査結果（加納ゼミ）

2社とも、従業員は自分の職務の重要性を認識し、自律的に仕事を進めることができ、経営戦略への理解度が高いという優れた特性が明らかになりました。

また、従業員が自分の仕事と生活のバランスが取れていると実感できれば、会社への愛着やモチベーションなどが高まるという特徴がありました。

今後の課題として、仕事に対する評価の公平性を高めること、社内コミュニケーションの向上を図ることなどが挙げられました。



2 病院1施設の調査結果（高階ゼミ）

医療・介護の現場における問題意識から、仕事での燃え尽き症候群（バーンアウト）、就職時の期待と現実とのギャップによる衝撃（リアリティ・ショック）、職場の一体感の醸成などの諸課題に着目して、WLBとの関係を分析しました。

いずれにおいても、WLBに関する職員の肯定的な感情やWLBを推進する職場の風土の存在は、職員心理に好ましい影響を与えるということを、データで示すことができました。



3 まとめ

今回の調査から、WLBの取組を積極的に推進することが、さまざまな業種で企業・団体や職場にとってプラスの影響を与えることが確認できました。

また、課題として挙げられた「組織運営の公平さ」「従業員のWLB意識の強化」などについては、他企業・団体においても参考となるものであり、今後のセンターでの支援に生かしていきます。

